

Real Design

リアル・デザイン

August 2008
880yen

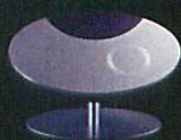
8

2008年8月1日発行
第3巻第12号
通巻34号(毎月一回1日発行)

for lasty life
社 出版社

なぜ、

アウディ/バング&オルフセン/ゼロハリバートン/
ライカ/ファーバーカステル

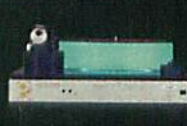


シルバーデザインが



プレミアムと

身だしなみは、プレミアム・シルバーで差をつける。
銘品チェアはいつだってシルバーだった。
シルバー・デザインの原点「BAUHAUS」は基本の知識
SEIKOウォッチに見るシルバー・デザイン解剖
シルバーパッケージ、宇宙へ行く。



呼ばれるのか?

第2特集
デザイン・モダン・キョウト
第3特集
プロも見とれるシルバー・ワークツール
特別記事「大人の銀座案内」

和傘

平安時代には魔よけや権威の象徴であった和傘。現代においても、茶道や日本舞踊、歌舞伎などには欠かせない。雨傘や日傘として携えよう、日本の美や粋を表現するアイテムを――。

ひやしや
日吉屋の京和傘各種
蛇の目傘 2万9400円



全長73cm、開時直径116cm、重さ600g、使用する竹骨44本
1本の組立を完成させるまでに、製造費〜数ヶ月を要する

雨の日に楽しむ 和素材が奏でる古の和音

和傘が一般に普及したのは、江戸時代の天明年間だといわれている。最盛期の昭和29年頃には日本全国で年間1000万本以上も作られていたが、洋傘の出現で和傘製造業者が激減。現在、京都では、日吉屋ただ1店が残るのみである。

和傘の骨は、洋傘が通常8本なのに対し30〜70本と非常に多い。手の込んだ造りであるがゆえに、製作工程は傘骨の数ほどあるといわれ、その一つひとつに専門の職人が付く。大きく分



骨組み

軽量の良竹を使用、竹が和紙を支えるように隙間するため、洋傘がアーチを極めるのに対して、開いたときの蛇目のラインは緩やかな



持ち手

柄の下先端、石突(いしつと)と呼ばれる部分には、上品に輝く真鍮(しんめい)を使用。手元には、持ちやすいよう天然の漆(うるし)が塗られている



和紙

高純和紙、雲山紙(高野山「ごんやま」和紙を原料に溶かして練製し、竹骨に張り付ける。調湿には、曹紙に漆(うるし)で防水加工が施される



人形寺として有名な西陣の宝鏡寺(はつきりうじ)内蔵にあり、茶室や茶室にも納めている。現任5代目主人が、新たな意思の和傘を世界的に開発

日吉屋

[MAP] P31-B
京都府上京区寺之内通堀川東入4番4町548
075-441-6644 / 10:00〜17:00 / 月曜休
www.wagasa.com

素朴な竹の渋みで魅せる 男性的な輪郭

特選番傘 2万6250円



全長76cm、開時直径116cm 重さ800g 使用する竹骨50本

蛇の目傘と並び、一般的な和傘が番傘である。こちらは、通常の番傘よりもグレートの高い竹と和紙で作られる「特選番傘」。その柄や骨組みには塗りを施さず、竹肌を生かした素竹を使用。特に、竹の節を残した柄には、たくましい印象を与える。古くから番傘には白色の和紙が用いられるそうだが、日吉屋では白のほか、渋みあふれる黒（写真上）や、あでやかな赤も制作。希望により、名前や家紋を入れることも可能だ。



ロクロと和紙

笠の内面を竹でまじめる素材がロクロ。和紙に貼り附けはいる。種を原料とした手廻りの構造を使用



素竹

別と重鎮みな素竹製。特選番傘では、竹骨の出来確認に塗りが施される。このあたりは、日吉屋オリジナル

その造形は 茶の湯の侘びを思わせる

差し掛け傘 6万1950円



全長122cm、開時直径14cm 重さ111g 使用する竹骨50本



竹

竹は、加工、着色を施さない素竹を使用。柄は木製黒塗りで仕上げ、自然の美しい風合いと色合いを巧く活かしている



和紙

産みの料と草色の和紙のコントラストが上品。縁部和紙の中でも、高貴さを感じる白糸糸茶（緑糸）というカラーで装飾

古くは、僧侶や身分の高い者へ、使者が差し掛けるために使われていたのが「差し掛け傘」。現在も寺社仏閣の伝行事などに用いられている。蛇の目傘の約2倍ある、すっと伸びた細長い直線の柄が、神が感じられる。

フォルムのシンプルさをより強調する。同じ用途で使われていた妻折野点傘よりも小さく、糸の装飾もないシンプルなデザイン。簡素さの中に美を見出す、茶の湯の侘びの精神が感じられる。

紬に描かれた風神雷神 見上げれば、京の優雅

あんぶれら 12万6000円



全長82cm、開時直径17cm 重さ700g 使用する竹骨50本



柄

木目か細かくさらさらとした高級和紙素材を採用。漆のあまアクリルと、自然の木目が高級感を演出している



風神雷神

和紙といえ、中から見るのがやや竹の小骨が映し、そんな和紙が竹の目を取り入れ、縁飾はあまアクリルに描かれている

「和のデザインや素材に、とことんこだわった和風洋傘を」というコンセプトのもと誕生したのが、「あんぶれら」だ。洋傘同様8本の金属製の骨を使った構造を取り入れる一方で、素材には、京都の染

め師が染色した正絹白出紬を採用。京友禅の絵師が風神雷神の絵付けを施すなど、随所に和のテイストが散りばめられている。和装洋装を問わず活躍してくれる、革命的な1本といえるだろう。